

都市再生整備計画 事後評価シート  
鹿部地区

平成23年7月

福岡県 古賀市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	古賀市	地区名	鹿部地区			面積	47ha
交付期間	平成19年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	827百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業		道路事業(東側駅前広場、西側駅前広場、市道鹿部28号線、自由通路)、公園事業(西側街区公園、歴史公園)、地域生活基盤施設(自転車駐車場、情報板)、高質空間形成施設(ベンチ・シェルター)						
	提案事業		まちづくり活動推進事業(まちづくりワークショップ)						
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	新たに追加した事業		基幹事業		-		-		
	提案事業		【地域創造支援事業】住環境対策防音整備		鉄道事業者との協議において、新駅のホーム構造の変更に伴い、防音壁の設置を取りやめ。		「区画整理地内住居人口」の指標に関係するが、数値目標は据え置く。		
交付期間の変更		当初	H19～H22		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-		
		変更	-						

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値				
指標1	JR新駅乗降客数	人/日	0	H18	2,000	H22	-	1,433	△	あり	東西駅前広場、自由通路の整備などにより、JRLしふ駅の利便性は向上したことなどから、利用者数は増加傾向を示し、事業の効果が現れているものの、目標値は達成できなかった。しかし、区画整理地内への入居は現在増加中であり、それに伴い駅利用者数も増加傾向にあるため、将来的には目標値は達成できるものと想定される。	-
指標2	鹿部公民館利用者数	人/年	5,020	H17	5,500	H22	-	11,665	○	あり	JRLしふ駅入口が自由に往来できるようになったことや、西側街区公園の整備により公民館へ通行しやすくなった事、さらに住民参加のワークショップを行ったことで、地域住民の交流活動が促進され、公民館の利用者数が増加した。	-
指標3	区画整理地内居住人口	人	86	H18	300	H22	-	1,157	○	あり	JRLしふ駅に自転車駐輪場や情報板を設置、更に東側駅前広場及び、地域住民の憩いの場である西側街区公園、また市で初となる歴史公園など、駅周辺を整備した事により快適な住環境が形成された事が、区画整理地内居住人口の増加に寄与した。	-
										なし		

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値				
その他の数値指標1	JRLしふ駅開業による交通利便性の向上に関するアンケート	%	34	H20			-	76.6			駅前広場など駅前の交通が整序され、また住民憩いの場である公園など、新駅周辺の東西駅前広場、自由通路、駐輪場などが整備され、鹿部地区がより快適な住環境となった事が、地域住民が交通利便性の向上が感じられると答えた割合の増加に寄与した。	-

4)定性的な効果発現状況

- ・住民による道路端の花植えや、駅周辺の清掃活動の実施により、地域住民のまちづくりに対する参加意識の向上が伺える。
- ・美明地区では、子育て世代が増加しており、子育て支援などの住民活動も活発になっている。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
モニタリング	指標の達成状況の調査		都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	必要なものについては、継続的に数値を把握・評価する。	
	ホームページでの事業の進捗状況の公表		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も事業の進捗、事後評価、フォローアップ等について公開するとともに、他の事業についても公表について検討を行っていく。	
住民参加プロセス	まちづくりのワークショップを平成19年度から平成20年度にかけて、8回実施し、地区の課題共有、まちづくりの方向性等についてとりまとめた。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	ワークショップでの地域住民のつながりを継続し、地域の行事、イベントを自治会を中心に実施していく。	
持続的なまちづくり体制の構築	校区コミュニティの組織づくりを推進。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	校区コミュニティ間の連携	

## 様式2-2 地区の概要

### 鹿部地区(福岡県 古賀市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: 古賀市の新たな交通・交流の拠点づくり	JR新駅乗降客数	単位: 人/日	0	H18	2,000	H22	1,433	H22
目標1 JR新駅の設置とアクセス道路の整備により、交通利便性を強化する。	鹿部公民館利用者数	単位: 人/年度	5,020	H17	5,500	H22	11,665	H22
目標2 バリアフリー化した自由通路の整備とまちづくりを考える機会をつくることで、地域住民の交流を促進する。	区画整理地内居住人口	単位: %	86	H18	300	H22	1,157	H22
目標3 計画的な宅地造成や公園等の整備により、快適で人にやさしい住環境をつくる。	JRLしぶ駅開業による交通利便性の向上に関するアンケート	単位: %	34	H20	-	-	76.6	H22



**まちの課題の変化** 駅前広場や自由通路の整備などを実施したことにより、当初の課題であった駅周辺の交通利便性の向上や地域コミュニティの活性化が図られた。今後は駅利便性の更なる向上や事業の効果を持続させるための地域のコミュニティ活動の充実、交通量の増加に伴う交通安全対策が課題である。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)** ・市域全体での公共交通のあり方の検討を行っていく。  
 ・快適な住環境及び駅利用環境の維持向上のため、交通安全対策、防犯対策を含めた地域住民のコミュニティ活動の充実を図ったり、駅前に生活利便施設を立地できるようにするための検討を行う。  
 ・地域住民の増加、JRLしぶ駅周辺の整備等により交通量が増加しているため、道路(浜大塚線)の立体交差化を行う。